

参 考 資 料

(倉庫火災における警防計画について)

平成29年5月12日

全国消防長会

警防査察実施結果明細表		対象物名称	横浜	
所在地			種別	2号査察対象物 大規模倉庫火災に伴う特命警防査察
実施消防隊等 隊名	○○消防隊	合計 1 隊 4 名 (項 目) 状 況	実施日時	平成29年3月7日 (火)
			作成者	
			職	
			氏名	
		立会者	局査察課との合同特命査察	
		指導内容	*防火シャッターの閉鎖障害 (局) *災害発生時の早期の情報提供 (部隊)	
周囲の 状況	■ 【有効水利(位置、水量、水圧、機能)】 敷地内私設防火水槽40㎡×3基 対象物西側道路公設消火栓2基			
	■ 【部署位置の状況、部署時の留意事項】 車両の進入は建物西側道路からのみとなる。 消防艇は対象物 に接岸可能。			
	■ 【隣接建物(方位、名称、特性)】			
	■ 【梯子車の架ていの状況】 地上からは東側以外は可能。3階にはトラックバースへの通路に部署可能 (北側、南側のみ)			
	■ 【障害物件等】			
	■ 【特記事項】 * 3階から5階部分への梯子架梯は地上面からは不能。3階トラックバースへの進入路から可能 * 建物最高軒高は35m			
対象物の 実態	■ 【対象物の特性】 ・当該対象物は製造業、小売業、輸送会社等の企業に賃貸している大規模な物流倉庫である。 ・耐火5/0で、 がテナントとして使用している。 ・各倉庫内には、主に箱詰めされた商品が鉄製のラックに多数保管されており、一部箱詰め用としてのダンボール (指定可燃物) が山積みされている。 ・車両用スロープ (大型車進入可能) は、対象物北側から進入し、一方通行で螺旋状に上って行き3階のトラックバースへ通じている。			
	■ 【居住・出入者の状況】 ・従業員以外に不特定多数の運送業者等が頻繁に出入りしている。 ・各テナントの営業時間は異なるものの通常は21時頃で終了する。 ・防災センターは、24時間体制 (昼間は従業員、夜間は警備員) である。			
	■ 【活動障害】 ・商品が高さ2m以上の鉄製ラックに積載されているため、視界が悪く荷崩れの危険性がある。			
	■ 【重点防御場所】 ・3階から4階に屋内貯蔵されている少量危険物 (エタノール、防錆スプレー、接着剤等) ・3階トラックバース、5階フロアに山積みされている指定可燃物 (ダンボール) ・対象物南側屋外に設置されている発電設備 (ライフライン電源) 用の少量危険物 (軽油750ℓ、ギヤ油23ℓ)			

※ 本計画及び図面は、架空のものであります。

対象物の実態	<p>■ 【延焼拡大要素・経路】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各階は防火シャッターで区画されるが、火災時に閉鎖障害が無く通常に作動すれば延焼危険は少ない ・上階への延焼は、各階4箇所ある屋内階段に防火戸が設置されているので延焼危険は少ない。
	<p>■ 【活動障害物質等保有状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3階から4階に屋内貯蔵されている少量危険物（エタノール、防錆スプレー、接着剤等） ・3階トラックバース、5階フロアに山積みされている指定可燃物（ダンボール） ・対象物南側屋外に設置されている発電設備（ライフライン電源）用の少量危険物（軽油750ℓ、ギヤ油23ℓ）
	<p>■ 【消防用設備の活用方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敷地内に3箇所（北側、南側、西側）に設置された防火水槽（各40㎡）の活用。 ・連結送水管（送水口6口全て同一配管）の使用。 *連結送水管送水口は対象物西側（1階西側入口横） ・屋内外消火栓（ポンプ室は1階南側）及び泡消火設備（制御弁は3階）の活用。
ガス遮断バルブ位置	
活動方針	<p>■ 【関係者との連携要領】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災センター（対象物西側1階エントランス内）に24時間体制で関係者が常駐しているので接触し、自動火災報知設備受信盤や情報処理盤等（防火シャッター作動状況等）を確認し情報収集活動を実施する。*入口は2箇所（西側と北側）あるが、閉鎖されていてもインターフォンにて防災センターと通話可能。 ・営業時間内は各テナントにも防火管理者など責任者が勤務しているため接触し情報収集を実施。 <p>災害時連絡先： TEL</p>
	<p>■ 【活動方針の重点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人命救助を最優先とし、関係者と早期に情報収集を行い要救助者の有無を確認する。 ・出火箇所を把握し、延焼拡大防止を図る。 ・消防用設備及び警防資機材を有効活用する。 ・指揮本部による部隊活動の指示命令。 ・隊員の安全管理の徹底。
	<p>■ 【消火方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期に火点を発見し延焼防止に努める。 ・消防用設備及び警防資機材を有効活用する。 ・排煙活動の実施。
	<p>■ 【人命検索、避難誘導方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係者からの情報収集による避難状況の確認。 ・検索漏れが無い人命検索。（検索範囲の指示・各隊との連携） ・屋内、屋外階段を活用した避難誘導。 ・非常放送設備（館内放送）の使用。
	<p>■ 【先着隊の任務】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期に関係者と接触し、出火箇所及び要救助者の有無など情報収集を実施する。 ・消防用設備を有効活用する。 ・状況に応じて早期に部隊の増強を要請する。
<p>■ 【後着隊の任務】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先着消防隊の情報、指揮本部からの命令に基づき、部署位置の選定及び活動内容を明確にさせ、確実な連携活動を実施する。 ・避難誘導の実施 ・仮救護所の設置補助 	
特記事項	<p>*当該対象物の上階への進入は、屋内階段（4箇所）及び非常用エレベーター（5基）。 【北側と南側の屋内階段は1階から2階、東側と西側は1階から5階（屋上含む）まで】</p>

※ 本計画及び図面は、架空のものです。

指揮隊用警防計画（指揮・表）

横浜		警防計画書		所在地	
防災センター		当該対象物南側、エントランス内		仮救護所設置場所 対象物敷地西側	
指揮本部設置場所		対象物敷地西側			
情報収集可能場所		当該対象物南側 防災センター			
第二出場集結場所		対象物敷地南側		第三出場集結場所 対象物敷地南側	
指揮 方 策	<p>■ 要 点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 指揮本部は、建物南側（防災センターの近く）に設置し先着隊と関係者より、災害発生場所の状況、要救助者、負傷者の有無を早期に情報収集する。 2 人命救助を最優先とし、各隊には人命検索及び避難誘導隊を明確に指示し、安全管理の徹底を図る。 3 各階の床面積が広大なため延焼拡大防止に努める。 <p>■ 指揮分担</p> <p>総合指揮：当直警防課長 前進指揮：当直警防係長（各隊長）</p>				
	<ol style="list-style-type: none"> 1 人命救助を最優先とし、関係者と早期に情報収集を行い要救助者の有無を確認する。 2 出火箇所を把握し、延焼拡大防止を図る。 3 消防用設備及び警防資機材を有効活用する。 4 指揮本部による部隊活動の指示命令。 5 隊員の安全管理の徹底。 				
活 動 方 針 の 重 点					
周 圍 の 状 況	<p>■ 隣接建物</p> <p>■ 障害物質等 特になし</p> <p>■ 特記事項 当該対象物への進入路は対象物の西側入口に限られる 消防艇は 〃に接岸可能である</p>				
対 象 物 の 実 態	<p>■ 特性</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 当該対象物は、耐火で1棟5階建ての倉庫である。 2 1階、2階を 3階から5階を 〃が使用している。 3 倉庫内は、箱詰めされた商品が多数保管されている。 4 車両用スロープは、対象物北側から進入し、一方通行でらせん状に上っていき3階のトラックバースへ通じている。 帰りは、そのまま一方通行で下りようになっている。 <p>■ 居住・出入者の状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 従業員以外に不特定多数の運送業者等が頻繁に出入りしている。 2 各テナントの営業時間は異なるものの通常は21時頃で終了する。 3 防災センターは、24時間体制である。 <p>■ 活動障害物質 商品が山積み状態のため、視界が悪く荷崩れの危険が予測される。</p> <p>■ 延焼拡大要素・経路</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 広大なフロアは防火シャッターで区画されるが延焼拡大要因である。 2 上階への延焼は各階の屋内階段に防火戸が設置されているので延焼危険は極めて少ない。 				
警防計画書作成者					

※ 本計画及び図面は、架空のものです。

指揮隊用警防計画（指揮・裏）

項目	戦術内容	
必要な事項 部隊運用上	1 指揮本部を早期に設置し、先着隊と関係者からの情報収集に努め、迅速に部隊活動方針を決定する。（人命検索・消火活動・避難誘導・指揮支援） 2 任務分担を明確にし、各活動隊の交代要員を確保し適切に指示する。 3 災害状況により、早期に増強部隊の要請に配慮する。（高度特別救助隊・排煙サルベージ隊ボンベ搬送隊・照明隊・救急隊） 4 内部は広大であるため検索漏れのないよう連携活動する。	
活用方法 消防用設備の	1 敷地内に3箇所設置された防火水槽の活用。 2 連結送水管への送水準備。 3 屋内外消火栓及び泡消火設備の活用。	
連携要領 関係者との	1 防災センターが倉庫南側エントランス内に24時間体制で常駐しているので初期情報などはここで確認する。 2 営業時間内は各テナントにも防火管理者など責任者が勤務しているので、情報収集は可能である。	
必要な事項 安全管理上	1 各階の床面積が広大なため屋内進入時にあつては、空気呼吸器を装着し部隊による行動を厳守、退路確保にも留意し活動する。 2 消防用設備及び警防資機材を有効に活用し安全で確実な活動をする。 3 指揮本部は、屋内進入隊の完全把握と危険要因の周知徹底。 4 指揮本部は、長時間の消防活動における交代要員の確保及び支援体制の確立。	
必要な事項 その他		
救護計画	関係機関等連絡先一覧	
	警察署	仮救護所の設置及び運営： 当該対象物の南側 先着救急隊及び指揮本部が指定した部隊
	区役所	
		一時収容施設： 指揮本部の指示
		特記事項：
	搬送病院一覧	
病院		
病院		
病院		

※ 本計画及び図面は、架空のものです。

指揮隊用警防計画（部隊）

横浜 警防計画書		〇〇消防署	整理番号			
所在地		構造	耐火構造			
責任者		階数/面積	5/0 20,000㎡(70,000㎡)			
防火管理者		最高軒高	35.0m			
災害時連絡先	防災センター		収容人員	450人(0人)		
梯:	<input checked="" type="checkbox"/> 内栓	<input type="checkbox"/> S P	<input type="checkbox"/> 水噴	<input checked="" type="checkbox"/> 泡	該当項目	
	<input checked="" type="checkbox"/> 粉末	<input type="checkbox"/> 無補	<input checked="" type="checkbox"/> 外栓	<input type="checkbox"/> 排煙		14項
	<input type="checkbox"/> 連散	<input type="checkbox"/> ハロン	<input type="checkbox"/> 非コン	<input type="checkbox"/>		
遮断V						
設備						
障害	危	臭	毒劇	火薬	高ガ	材ガ
	■ 特記事項					
対象物の実態	■ 周囲の状況					
	特性 ■ 1 当該対象物は、耐火で1棟5階建ての倉庫である。 2 1階、2階を、3階から5階を が使用している。 3 倉庫内は、箱詰めされた商品が多数保管されている。 4 車両用スロープは、対象物北側から進入し、一方通行でらせん状に上っていき3階のトラックバースへ通じている。 帰りは、そのまま一方通行で下りようになっている。 ■ 水損防止・注水禁止場所 特になし					
活動方針	■ 先着隊の活動					
	1 早期に関係者と接触し、出火箇所及び要救助者の有無など情報収集を実施する。 2 消防用設備を有効活用する。 3 状況に応じて早期に部隊の増強を要請する。					
	■ 後着隊の活動					
	先着消防隊の情報、指揮本部からの命令に基づき、部署位置の選定及び活動内容を明確にさせ、確実な連携活動を実施する。					
■ 重点防御場所等						
隣接区画への延焼防止						
■ 消火活動						
1 早期に火点を発見し延焼防止に努める。 2 消防用設備及び警防資機材を有効活用する。 3 排煙活動の実施。						
■ 人命検索・避難誘導方策						
1 関係者からの情報収集による避難状況の確認。 2 検索漏れが無い人命検索。（検索範囲の指示・各隊との連携） 3 屋内、屋外階段を活用した避難誘導。						
情報収集可能場所	建物南側 防災センター					
指揮本部候補地	建物西側、南側駐車場					
第2出場部隊集結場所	建物南側駐車場					
計画策定年月日		計画変更年月日				

※ 本計画及び図面は、架空のものです。

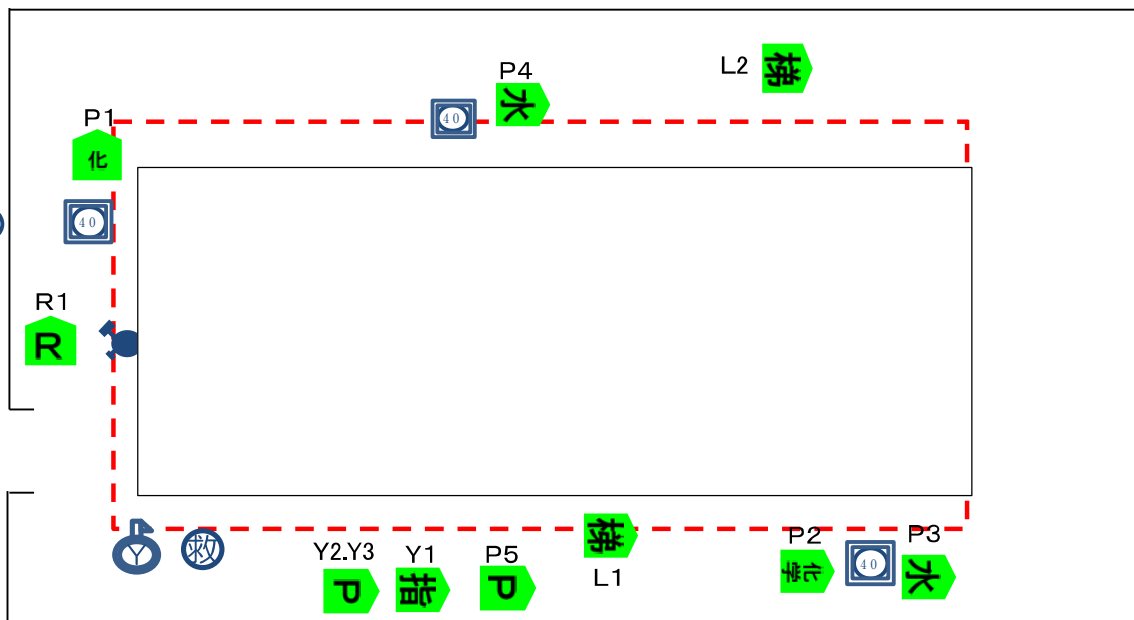
活動隊警防計画(表)

横浜 警防計画書										区分	〇〇消防署	整理番号							
対象物別										区域別		特別							
項別	超高層	特化工	地下鉄	自道ト	放射性	毒劇物	特材ガ	産廃	延焼拡大	活動障害	市民の森	水道断水	31m以上	木造校舎	一時保管	特殊建築	産廃施設	重大違反	その他
項1 4																			■
所在地										構造			耐火(5/0)						
責任者										面積			建20,000㎡ 延70,000㎡						
防火管理者										最高軒高			35.0m						
災害時連絡先										収容人員			450人						
凡	← 消防隊進入路			■ 屋外消火栓		♂ 指揮本部		♂ 救護所		♂ 消防用水									
例	♂ 連結送水管送水口		■ 屋内消火栓		♂ 消防用設備ポンプ室			♂ 自火報受信盤											
	♂ 非常用ELV		■ 階段	 はしご架梯可能部分			♂ 防災センター											
<p>※ 本計画及び図面は、架空のものです。</p>																			
計画策定年月日					計画変更年月日														
警防計画作成者																			

活動隊警防計画(裏)

災 害 種 別				
中層建物火災				
車種別(計画出場隊)	任務(指定水利番号)	車種別(計画出場隊)	任務(指定水利番号)	
○○梯子	L1	梯子活動(消火・救助)	×○特別救助隊 R1	消火活動・人命検索
××梯子	L2	梯子活動(消火・救助)		
○○消防隊	P1	消火活動・人命検索		
××消防隊	P2	消火活動・人命検索		
▲▲消防隊	P3	消火活動・人命検索	○○指揮隊 Y1	指揮本部運営活動
□□消防隊	P4	消火活動・人命検索	○○第1消防隊 Y2	指揮支援活動
★★消防隊	P5	消火活動・人命検索	●●消防隊 Y3	指揮支援活動

部署位置図



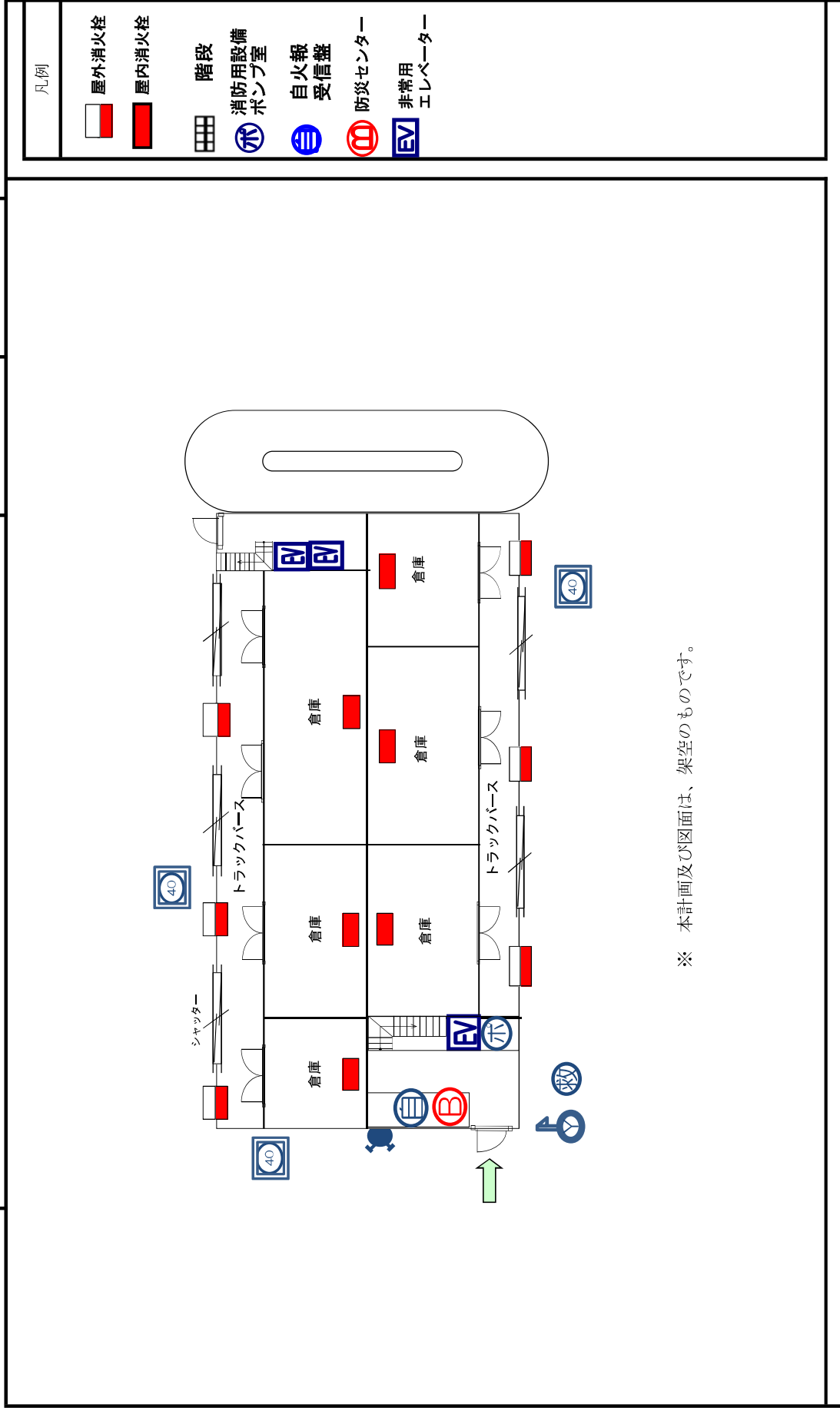
※ 本計画及び図面は、架空のものです。

自隊の活動方針

横浜 平面図

ブロックNo.

1階

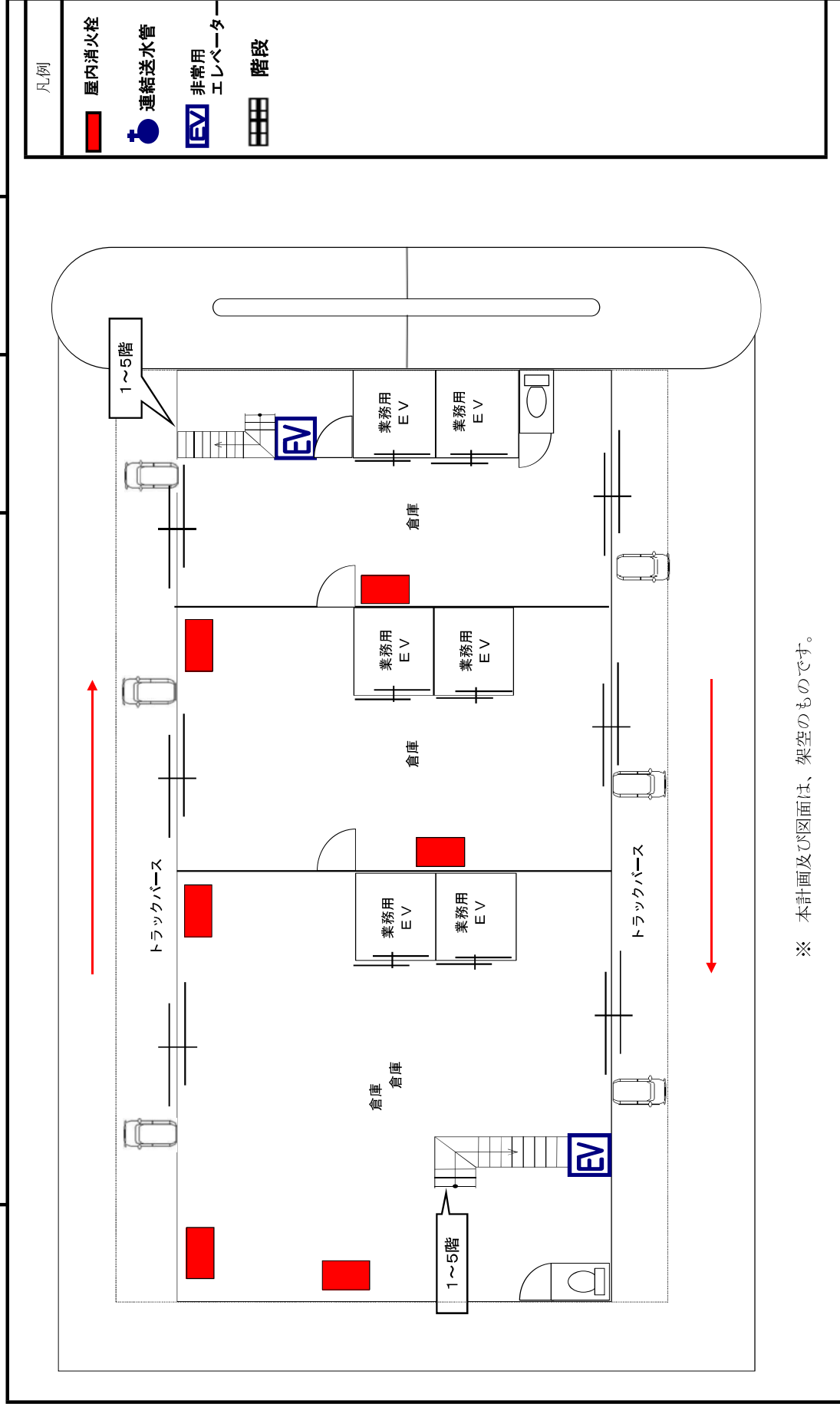


※ 本計画及び図面は、架空のものです。

横浜 平面図

ブロックNo.

2階

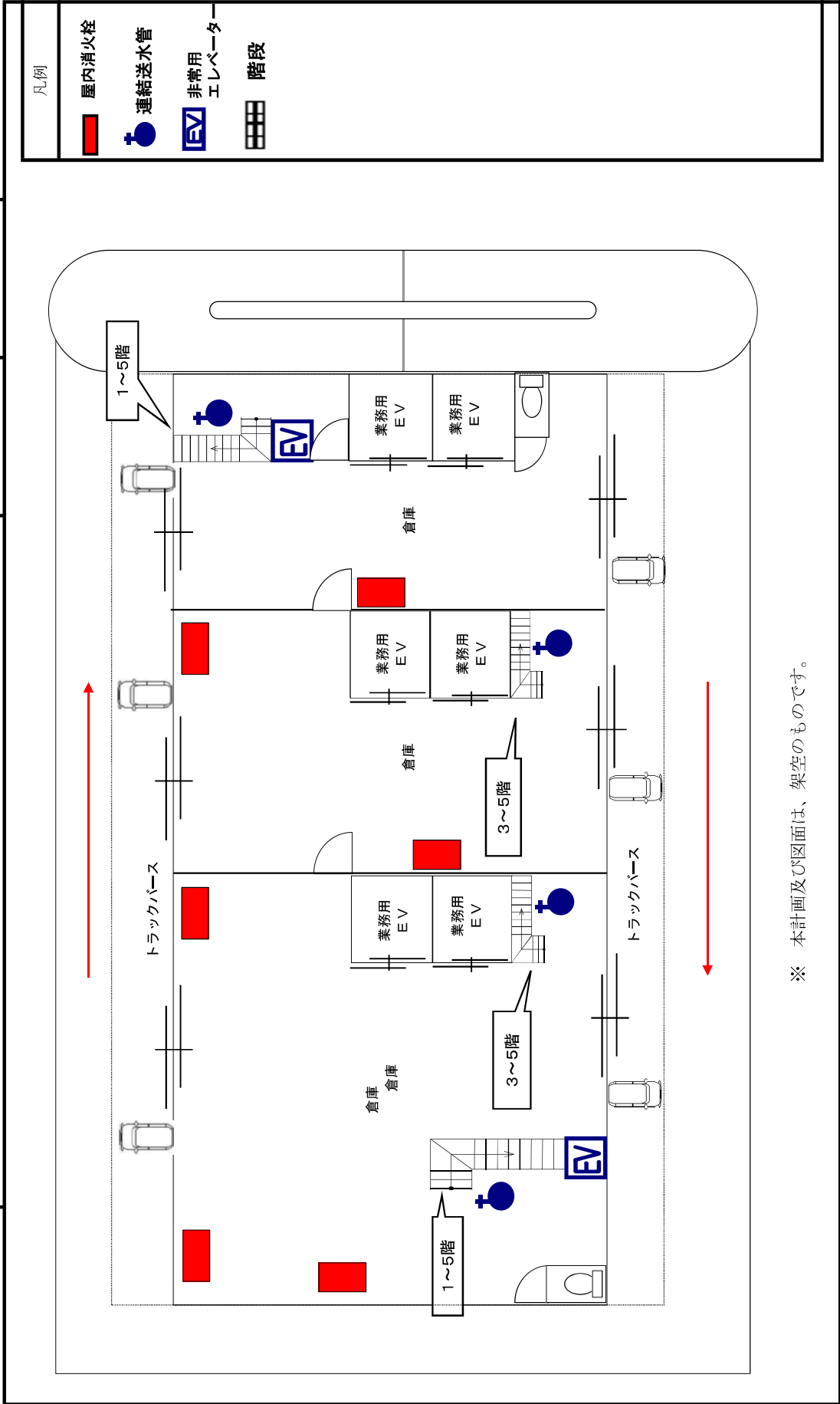


※ 本計画及び図面は、架空のものです。

横浜 平面図

ブロックNo.

3階

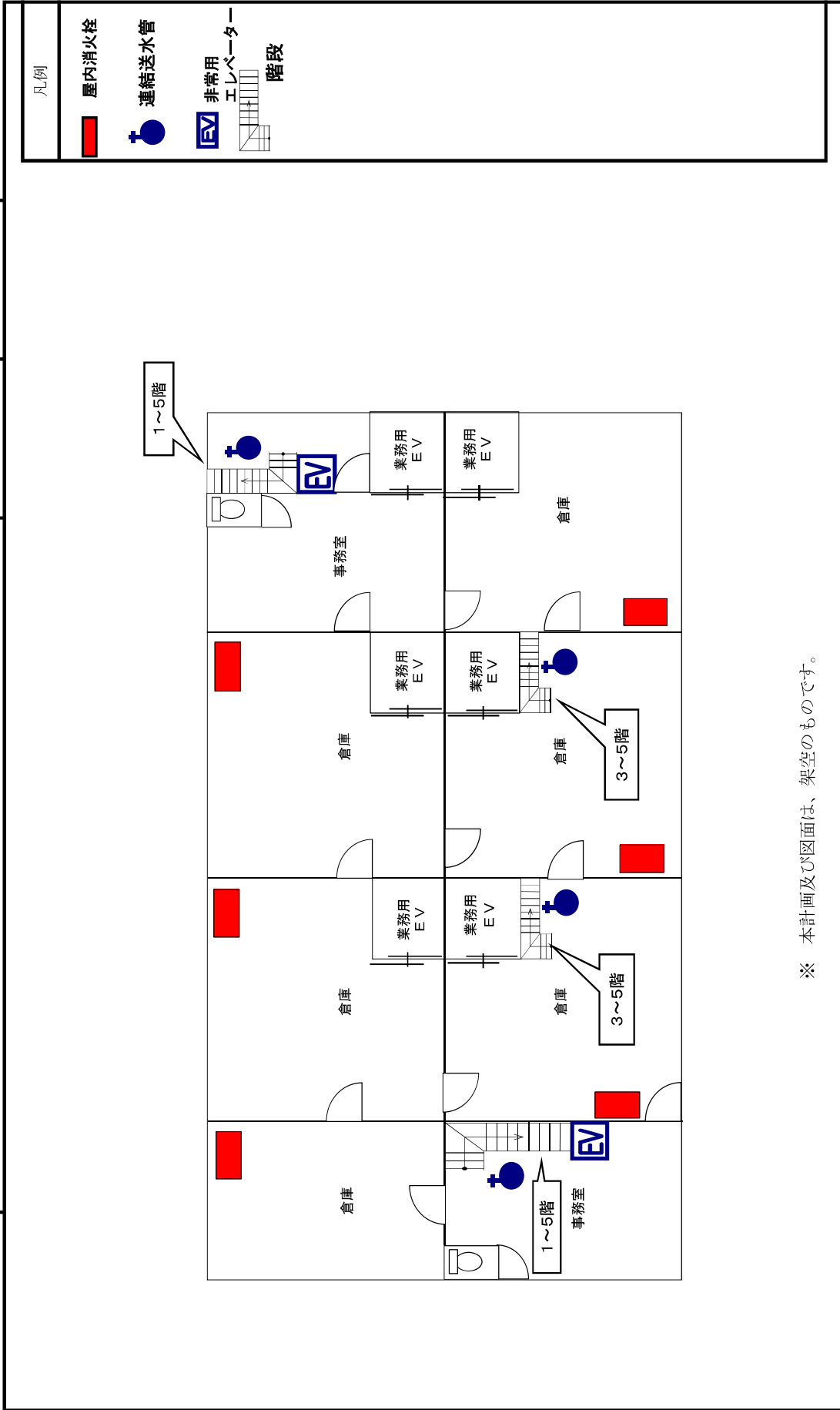


※ 本計画及び図面は、架空のものです。

横浜 平面図

ブロックNo.

4階

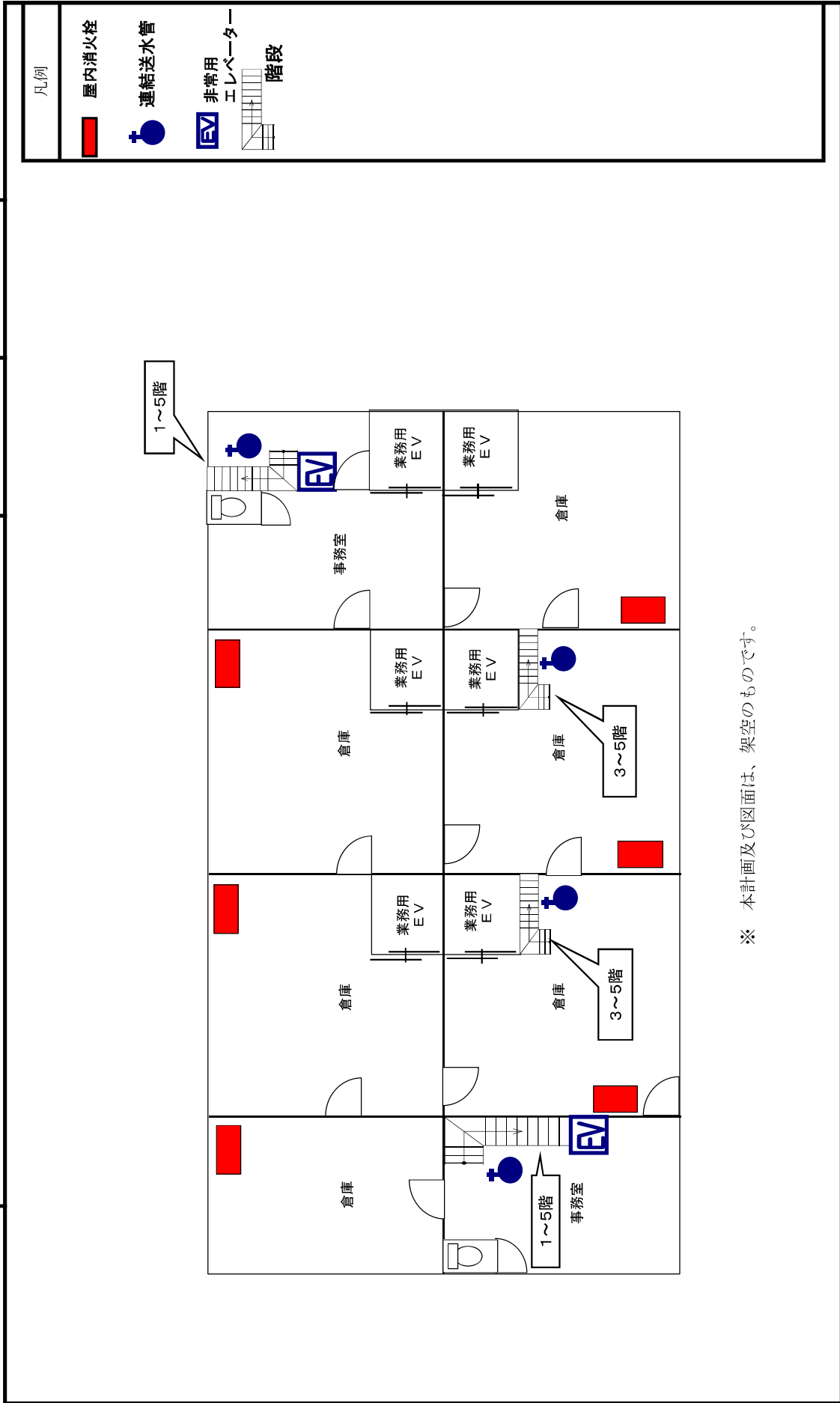


※ 本計画及び図面は、架空のものです。

横浜 平面図

ブロックNo.

5階



※ 本計画及び図面は、架空のものです。